

# 飯田伊那

## 「スマート農林業」事例紹介

信州大農学部(南箕輪村)と伊那市は27日、中山間地の農林業の課題解決に先端技術を取り入れる「スマート農林業」を巡り、市役所でシンポジウムを開いた。同学部教授らが開発中の先端技術や活用事例を紹介。農林業の現場に取り入れる方策を議論した。

小型無人機ドローンを使った森林調査について研究している加藤正人教授は、ドローンでレーザー計測することで樹木一本ずつの高

### 信大・伊那市がシンポ



先端技術の活用策を議論したシンポジウム

さなどが精密に分かる技術を開発した」と説明。渡辺修准教授は、水田をドローンで撮影した画像の解析により稲の生育状況を調べる技術を紹介した。

パネル討論で白鳥孝市長は、荒廃農地や担い手不足など市が農林業分野で抱えている問題の解決に「先端技術を活用したい」と強調。渡辺修准教授は自動運転のトラクタを例に「若者が農業に興味を持つきっかけになる」とし、加藤教授は「学生が目を輝かせるような産業にしていきたい」と話した。